

<新刊紹介>

武市伸幸・著「年輪気候学～西南日本におけるその可能性について～」

村上 雅博（高知工科大学環境理工学群 教授）

本書は、武市伸幸氏がライフワークとして取り組まれた「年輪気候学」について、これまで著者が書かれた論文を中心にまとめられ、(株)リーブル出版より刊行された著書である。著者がライフワークとして年輪気候学の研究を始められたきっかけは、1980年に広島大学大学院環境科学研究科（修士課程）在学中の試行錯誤がきっかけであったと記されており、25年間に及ぶ地道な研究成果である博士論文をベースにさらに整理と考察を加えてとりまとめている。高知をフィールドに持つ市井の科学者としての生きがいと信念が感じられる著書である。

具体的な内容は6章構成で、序章：わが国における年輪気候学研究史とデータ処理上の問題点、第1章：年輪幅の測定と基準化について、第2章：中国・四国地方における機構要素と年輪幅の相関関係、第3章：気候要素の変動に対する応答の解析手法について、第4章：杉の年輪幅の変動より復元した高知県梁瀬の気温変化、第5章：年輪幅より高知市の夏季平均に地最低気温の年次変動を復元する試み、第6章：年輪幅より高知県の10月の最高気温の空間分布を復元する試み、からなっている。

日本の年輪研究を4つの時期に分け解説した後に、年輪気候学的研究の手法を明らかにし、西日本（高知県）におけるフィールドでの実証研究に進み、実際の年輪幅測定値を用いて過去の気候復元を試みている。

本著は、「温故知新」の諺にあるように、わが国で地球規模温暖化の強い影響下にある高知県から発信された古気候学のテキストとして、今後地方自治体が取り組むべき政策課題となってきた気候変動適応策の検討過程に裨益する可能性がある。

[ISBN-10 4863380593/ -13 9784863380592b・144頁・1,500円・2012年11月刊・リーブル出版]

